

視覚障がい者の移動を手伝う方法（基本編）



～視覚障がい者の声です～

行きたい場所の方向かわからなくなり迷っていた時、見ず知らずの方が「どうかされましたか？」と声をかけてくれました。行きたい場所を告げ、どちらの方向かを聞くと「一緒に行きましょう」と案内してくれました。「その方も忙しいだろうに…」と思いながら、そのご親切に自分の気持ちも温かくなり、今日も一日がんばろうと思いました。

あなたから近づいて「何かお困りですか？お手伝いしましょうか？」と声をかけましょう。

方法

- 歩き始める際は、「行きましょう。」などと声をかけてから動きます。
- 肘の上を握ってもらいましょう。握る手はどちらがよいか、相手に聞くといいです。
- 介助する人は、視覚障がい者の斜め前に立つようにします。（半歩前です）



視覚障がい者

介助する人



気をつけたいこと

- ◎ 歩く速度は、視覚障がい者の方にあわせましょう。安心する速度を心がけましょう。
- ◎ 段差や階段、スロープなどの前では、いったん止まり、「階段です」などと伝えましょう。また、段差や階段のふちを確かめてもらいましょう。手すりがあれば、手すりを利用してもらいましょう。

やってはいけないこと

- × 衣服や腕をつかんだり、ひっぱったりはしません。
- × 後ろから押ししてはいけません。

コロナ禍の今は…

- 持っているハンカチなどを握ってもらって同じように介助することもできます。そのことを相手に伝えましょう。介助してもらう側にも躊躇があり、常に新聞紙を持参し筒状にした新聞紙を握ってもらって介助してもらっているという方、外出をためらっている方もいらっしゃいます。
- 同行援護サービスという移動介助の仕事をしている方たちの中には、コロナを気にするあまり、視覚に障がいのある方たちの歩く機会が減り、日常の会話もなくなって、孤立したり健康状態が悪化したりすることがないか心配されている方もいらっしゃいます。その方たちは、手洗いうがいや消毒を徹底し、仕事を続けているそうです。